



内田雅人 議員

斐乃上温泉の観光振興ために オートキャンプ場創設の考えは

町長 地元の意見も聞きながら検討する
機会を持ちたい



魅力の多い斐乃上温泉とその周辺



問 日本三大美肌の湯に選ばれた斐乃上温泉だが、来場についでいないのが現状だ。鳥根県は日本一の美肌県として注目が集まるが、来場数を増やす方策は。

答 県道の印賀奥出雲線が改良の途上であり、今大々的な宣伝は行っていないが、道路整備を急いで行い、更なるPRに取り組む。

問 美肌の湯に加え、斐乃上温泉は周辺にも素晴らしい環境と素材がある。私たちには当たり前のものが、実はとても貴重で求める人は多い。高野町に非常に人気の、単体で黒字を出しているキャンプ場がある。冬場も雪遊びを目的に宿泊が多い。私はそれと比べても環境と素材では斐乃上温泉周辺が勝っていると思う。自然を生かしたオートキャンプ場を作ったらどうか。全体的な認知度アップと相乗効果を生むと考えるが、町の考えは。

答 確かに魅力が多いが、船通山に向かって溪谷は開けてないので、どういうキャンプ場が可能かどうか、地元の意見も聞きながら現場のほうで検討する機会を持ちたい。

問 次に新仁多庁舎建設に合わせて、三成の街中に人を引き込む仕掛けが作れないかと住民座談会の中で規模の大きな案が出ている。これに対する町のスタンスは。

答 まちづくりにおいて



ドクターヘリ、受け入れの充実を

活発な議論がなされているようだ。ハード面、ソフト面を含めて可能な限り今後の行政に生かしていく。

問 次に奥出雲町は11月末まで35件のドクターヘリ出動があり、地域の専門医が不足する中、なくてはならないものになっている。19箇所を臨時離着陸場が指定されているが、小学校のグラウンドなど砂地も多い。砂埃であったり授業中であったり、実際に使用可能なのか。

答 内田健康づくり推進室長 全て使用可能だ。砂地の場合、救急車の前にポンプ車で散水をして安全を確認しヘリを誘導する。

問 19箇所は町内をかなり網羅しているが、三井

野地区は離着陸場から遠い。近くに指定の考えは。

答 内田健康づくり推進室長 三井野地区の場合、現在横田の多目的広場を活用し、20分かついている。今後奥出雲消防署と適切な場所について検討する。

問 19箇所ある離着陸場が積雪時には2箇所に限られる。今後増やしていく考えは。

答 内田健康づくり推進室長 随時除雪のための経費が必要になる。当面はこれで様子を見たい。

問 ヘリは10分で飛んできて、離着陸場まで行くのに2、30分かかるとことになる。検討が必要だ。最後に、コメの生産調整を廃止するという国の方針が決定した。自由競争となっていく中で仁多米の今後の戦略は。

答 産地間競争に勝つための強い体制作りが必要だ。消費者から信頼される環境にやさしい売れるコメ作りのために、生産、流通、販売を通じて体制を強化し、さらにブランド化を加速させなければならぬ。